

■ 住職戯言



遠く求むるはかなさよ

遠く求むるはかなさよ

「遠く求むるはかなさよ」（白隠禅師坐禅和讃より）

自然が不安定になってきますと、人の心も何かと不安定になり、政治も経済も社会全体が不安定に感じられるようです。とすると、この不安定と言うやつですが、私たち一人一人の心が、周りの風に煽られて風見鶏のように、くるくると踊らされて目が回っている、目線が迷っているということなのではないでしょうか。

私たちの風見鶏は、遠くからの風に、くるくる回りながら、どこからどれだけの風が来るのかを遠くの外を見ようとしているのです。

私たち臨済宗の者にとっての宝であるお経に「白隠禅師坐禅和讃」があります。その一節に「遠く求むるはかなさよ」とあります。

遠く求めてしまうのは、風見鶏のように、周りの風に煽られて思いもよらず翻弄されている私たちです。私たちは、遠くの山の木々を見、風の方角や強さを知ろうとしています。それらを知れば、風に対処できるのではないか、今あるものを失わずに済むのではないか、そうならば、この心の不安も収まるのではないかとはかない思い違いをしているというのです。もちろん、自分の周りを知る事は大事なことです。

しかし、自分自身があやふやで、右往左往しては、風見鶏の軸がぶれているようなもので視点が定まりません。この事を私ども臨済宗の基礎をお作りになった臨済禅師は、そのお言葉をまとめた『臨済録』の中でこうおっしゃっています。

『臨済録』示衆（入谷義高訳注、岩波文庫）

「病甚（やまいなん）の処にか在る。病は不自信の処に在り。？若し自信不及ならば、即便（すなわ）ち忙忙地（ぼうぼうじ）に一切の境に徇（したが）って転じ、他の万境に回換（えかん）せられて自由を得ず。？若し能く念念馳求（ちぐ）の心を歇得（けつとく）せば、便ち祖仏と別ならず。」

訳「病因はどこにあるか。病因は自らを信じきれぬ点にあるのだ。もし自らを信じきれぬと、あたふたとあらゆる現象についてまわり、すべての外的条件に翻弄されて自由になれない。もし君たちが外に向かって求めまわる心を断ち切ることができたなら、そのまま祖仏と同じである。」

外から来る風ばかり見ていると、その風に翻弄されて自由になれない。軸を真直ぐに立てて、自分自身のその真直ぐな軸を信じることができれば、お釈迦様と同じ、心が安らかさになると言うのです。

『白雪姫』という物語がグリム童話の中にあります。子供のころ、デイズニー映画で見た方もあるかと思います。白雪姫の継母である女王は、魔法の鏡に問いかけます。「鏡よ、鏡よ、世界で一番美しいのは、誰なのだ？」鏡は、毎回、女王に「世界で一番美しいのは、女王様でございます。」と答えます。

それが、白雪姫が7歳になったある日、鏡は、「世界で一番美しいのは、白雪姫でございます。」と答えるのです。

女王にとって、鏡に「一番美しい」と言ってもらわねば、安心できなかったのです。

しかし、見た目の美しさというのは、時間と共に変わってきます。また、一番美しいということも、人それぞれです。それは、巡り合わせの移り変わりで変わってくるのです。変わっていくことは道理なのですから、仕方のないことなのです。それを、女王は、理解できませんでした。だから、小さな女の子である白雪姫を森の中に置き去りにして、亡きものにしようとしたり、変装して、毒りんごを白雪姫に食べさせようとしたりします。

それでも、女王は最後には非業の死を遂げてしまうのです。

私たちも同じようなことをしていないでしょうか。自分に自信がなく、誰かに褒めてもらわねば安心できないなんてことはありませんでしょうか。インターネット時代ですから、魔法の鏡ではなく、ツイッターやブログなどで反響を気にしてしまう。ひどい書き込みがあったりするとめげて気落ちしてしまうなんてことはありませんか。

自分に自信がないから、着飾るのです。肩書きを求めたり、お金や物を求めたりしてしまうのです。

そして、着飾った上辺の形で、くっ付いている勲章で、持っているお金や物で安心しようとしています。

けれども、それらは、風の向き強さが変われば、失うものなのです。失うことに恐怖し、巡り流れるものを引き留めよう苦しむのです。その巡り流れる世界に不安を覚えるのです。

坂村真民さんの詩が、その不安に一つの答えを与えてくれます。

詩 「大事なこと」坂村真民

真の人間になろうとするためには

着ることより

脱ぐことの方が大事だ

知ることより

忘れることの方が大事だ

取得するより

捨離することの方が大事だ

大事なことは、着飾ることより、裸の自分を知ることです。

不安を消そうとして、外のいろいろな人の考え方や言葉を知ることより、それを忘れて、自分の立っている、軸を真直ぐにすることのほうが大事なことなのです。

勲章を取得することより、自分にくっついているものを捨て去って、裸の自分を信じるのが大事なことなのです。

白隠禅師は「遠く求むるはかなさよ」と言います。遠くの外の世界に求めては自分を見失ってしまうと教えてくれます。

臨濟禅師は、自分を信じられないから、外に求めてしまう。ならば、自分を信じて、外に求めることを止めよと教えてくれます。

風見鶏が、もし外を見ていたら、くるくる回って目が回り、目線が迷ってしまうでしょう。どこを見ればいいのか。自分の中心軸です。動かない一点があるのです。

私たち自身にも、そういう動かない一点があると信じて、自分自身を見つめるのです。

風見鶏は、風の向きを知らせるものであると同時に、魔除けでもあります。外からくる魔の風を跳ね返すものなのです。外の風にいくらくるくると回らされても、自分自身の動かない一点があると信じて、自分を見つめていきたいものです。

それが、不安を呼び起こす、外からの魔の風を跳ね返すはたらきにつながるのです。